

社長の仕事～その10：本当に戦うべきもの

社長の仕事とは何か？突き詰めると3つの物との戦いに行きつく。

一つ目として戦うべき物はすべての人の中にあるエゴ。世の社長の多く、特にオーナーは、社員の為よりも自分や自分の家族の事を考えている。社員にしても、同僚や顧客よりもやはり自分やその家族を優先しがちである。顧客の担当者も結局は自分や自分の会社優先である。もちろん最終的には自分の為という事はやむを得ないが、まずは相手の為になる事をやって、それが自分に戻ってくることを知るべきである。社長が自分や一族だけを優遇するとか、社員が同僚や顧客をないがしろにするとか、お客が価格や納期で勝手な事を言うといった事を、いかに排除できるかが経営のカギとなる。

二つ目として栄枯盛衰。栄えていた会社が、経営者が変わったとか、時流が変わったという事で、一気に衰退し、廃業、更には倒産するという例は、枚挙にいとまがない。会社はそれ自体で業績が決まるのではなく、経営者いかんによって決まるようなケースも多い。代替わりというのを最大の栄枯盛衰の原因と考えなければならない。経営者の考え方、やり方次第で会社は10倍にもなれば、倒産もする。驕りも大敵である。また、世の中の変化によって大きく変わる場合も多い。例えば、レコード針やフィルム写真など、日々の生活に溶け込んでいたものが、技術の変化によってほんの一握りのマニアだけのものに縮小してしまったという例もある。業種を分散しておくとか、常に新しい仕事を模索しておくといった日頃の対応が必要である。どちらに転んでも良いという姿勢が大切である。三つ目は無知。製造業の経営に限っても、知るべきことは多い。世界情勢、経済の動向、企業情報、法律知識、企業会計、人事労務、技術動向、加工技術、機械設備、IT技術、その他諸々である。我々経営者は、それらのいずれかを知らない為に、大きな損失を被る可能性がある。法律を知らない事により思わぬ違法行為をしてしまったり、技術を知らない為に重大な不具合を出してしまったりする。しかしながら社長一人でそれらを全て把握することは不可能である。その為経営者は、一つ二つは極めるにしても、残りはざっと一通り知るに留めて、後はそれぞれに詳しい人材を揃える必要がある。

以上の三つの事を心掛けていれば、会社は生き残っていける可能性は高い。しかし、顧客とか国とか、力のあるものがこれらに反する行為をしている場合もあり、その場合の弊害は大きい。顧客で言えば、ISOを始めとする画一的な管理や無謀な増産計画などを押し付けてきたり、国で言えば画一的な労働時間の削減、土地の利用制限、頑張る者が馬鹿を見るような税制などである。顧客や国に対してはあからさまに反対する事は出来ないが、できる限りそれらを避けられるような対応をしたり、やんわりと反抗するくらいのことはすべきだと思う。